

養命の里NPO法人7年目に

2002年2月にNPO法人化した「信州養命の里プロジェクト」は、長期的ビジョンに基づいた「地域づくり」を目指して活動を展開してまいりましたが、6年間の歳月は刹那の内に過ぎてしまいました。会員・理事・役員に支えられながら今日まで継続していることに対して感謝しています。

昨年は5周年の節目として、「結いと絆、協働で開く地域の和」をテーマに中川村文化センターで開催するこ



とが出来ました。伊那食品工業(株)取締役塚越寛会長にお願いした講演では、「いいふる里を作りましょう」と題して一つの目標を目指して実践するためには先ず「人づくりから始める」ことが大切であることを主張されました。

法人化7年目を迎えた本年度は、「養命の里」役員改選を行います。

NPO法人が「持続可能な活動」を継続していくためには、「改革」と「改善」を中心組織を見直していくことが必要です。各々の事情や考え方の相違から退会された仲間もあり、また新しく入会された方もおられます。そういった実情を鑑み、活動内容を含めて理事会で検討されました。

今回の改選に伴い、新しく6名の理事を迎えて気持ちも新たに事務局長を選任、内定いたしました。

総会の席で承認され次第、新事務局長を中心に会員・理事・役員が一丸となつて取り組んでまいります。

養命の里新年度の活動に向けて最大の課題は「持続可能な事業活動」を展開するために必要な人づくりです。

地域を支えている県・行政・信州大学・企業・NPO法人と連携し、サポートをお願いしながら、未来に向けて必要となる人材育成のための「担い手人材育成塾」を企画しました。

農山村と都心に住む仲間たちとの交流を軸にして、山林や遊休農地自然資源を有



効に活用した自立のための足掛かりを築いていきます。

「育成塾」の塾長には、元信州大学農学部・島崎洋路博士をお願いし、信州大学農学部の専門分野で活躍されている先生方を中心にグループ団体8名の講師陣が脇を固めます。実行委員・塾生ともに、年齢・世代・職業を問わず、参加された方々

自身が主役の育成塾に、伊那谷と東京開場5会場を楽しみながら未来を担う担い手作りに挑みます。



「担い手育成塾」に興味や関心がある方は、事務局「養命の里」までご連絡下されば資料をお送りします。インターネットホームページでもご覧になれます。

文松村
編 金倉

●第7回

山の寺にて写経と参禅会

(2008年3月19日)

参禅会は、養命の里設立以来、毎年企画しているイベントの一つです。

平成20年度の参禅会を行います。



したので、その報告です。天気が悪く標高の高い所では雪、平地でも冷たい雨が降り寒い一日でした。参加者は一七名でした。日



参加者の多くから、こんなに和気あいあいとした楽しい行事なら、秋の景色の良い時に企画があるいいなどの声がありました。

また、初めて参加された方の中に、今度は妻と一緒に来たいといわれ方もいました。

私としては、今回の参禅会は少なくとも成功であったと思えますが、養命の里の理事の方の参加が少なかつた事が少し気がかりです。

理事の方、会員の多くの方が参加できる企画を、今後は考えなければなりません。

文小笠原
編 金倉

養命の里会員活動紹介

信州伊那谷の自然資源と自然環境を舞台として、八〇余名の会員・理事と共に活動を始めて7年目を迎えることが出来ました。多様化する時代を背景に、出会い・ふれ愛い・支え合いをキーワードとして、集った仲間が知恵を出し合い、今出来ることを模索してきました。

本年度の役員改選に伴い会員・理事の活動紹介をします。

限られた枠内で紹介する方も限られてしまいますが、「今後の活動に於いて役立てば」と考えて、ご本人の承諾を得てご紹介します。

●農事組合法人増野

信州まし野ワイナリー(株)



ましのワイナリー前にて。左から宮澤社長、松村養命の里理事長、寺沢組合長

下伊那郡松川町の増野地域で、農林水産省「特別栽培農産物」と長野県「環境にやさしい農産物」認定栽培に取り組んでいる農家の団体です。

信州りんごを主力に持続性の高い農業生産方式の導入

促進に挑み、取り組み始めた昭和四五年頃は相手にもされなかったことが、近年「健康・安心・安全」な農産物が注目され、昨年は大手商社三井物産直系の三井食品(株)との取引が成立し、全国的レベルの販売を展開しています。平成十五年に養命の里の会員また理事となつて会の運営の助

言・支援を頂きながら今回の「担い手育成塾」にも積極的に実行委員としてご協力を頂きました。農事組合法人増野

http://m-mashino.com
http://www.mashinowine.com/

●宅幼老所

いさとネット梅戸

飯島町梅戸神社近くで、古家を改装して宅幼老所を運営されています。急速に進む高齢化社会の背景に対して、自ら施設の所長として地元の高齢者と一緒に



日々の介護に活躍されています。養命の里とのご縁も長く、お互いの活動を通して「結いと絆」協働の理念によって必要に応じて参加しています。養命の里の、薬草を専門としている仲間が研究開発をして、会の運営資金の一環となつている健康茶、「信州めぐみ茶21」を施設内のお年寄りのためにご利用いただいています。

●養命の里理事

中川村で農家民宿「はたなか」を開業され、村内の農家民宿や農家レストランなどのとりまとめなどにも尽力されています。http://hatanakaya.com

また、Iターンで農業を始めた若者らと共に、黒米などの古代米や、もち粟など最近流行の雑穀類、有機農産物の栽培に取り組み、「ひばり農場」ブランドとして展開されています。



養命の里では、理事・農園部会の責任者となつて活動されています。遊休農地・荒廃地の有効利用対策として、薬草として利用される「なたまめ」の栽培に取り組んでいて、これは長野県生薬(株)からの依頼によるものです。将来仲間たちとの栽培を考えているということで、本年度は昨年の倍の面積に挑戦しています。



長野県生薬の部長さんと養命の里松村理事長

企業との契約栽培は、身近に点在する農地の利用方法として期待されるところです。

文松村 編金倉

今後とも変わらぬご支援下さい。長野県上伊那郡中川村片桐2316の2 信州養命の里プロジェクト事務局 Tel 0265-88-2452 Fax 0265-88-2390 e-mail sys100@ceres.ocn.ne.jp info@npo.youmei.jp URL http://npo.youmei.jp 「養命」は、養命酒製造株式会社の著名商標で、「養命の里」の使用については、同社の承諾を受けております